

Title	内田義彦・宮崎義一・小林昇・宮崎犀一編 経済学史講座Ⅰ：経済学史の基礎
Sub Title	
Author	飯田, 裕康
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1965
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.58, No.2 (1965. 2) ,p.155(73)-
JaLC DOI	10.14991/001.19650201-0073
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19650201-0073">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19650201-0073</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

出口勇藏著

—ウエーバーの経済学方法論

本書はウエーバー生誕百年を機に、長年ウエーバー研究の先達の一人であった著者が、これまで発表してきた四つの独立論文を一書に収めたものである。第一の論文は、本書の標題と同じ「マックス・ウェーバーの経済学方法論」であって、本書の半分以上を占めている。ウェーバーに関する他の二論文は、雑誌「思想」に、他の一論文「歴史学派」は東洋経済新報社の「経済学大辞典」に発表されている。

著者のウェーバー研究の特徴は、ウェーバー

の思想像をその広汎な思想史的背景の中から浮かび上らせようという接近方法であるといえよう。それは、ウェーバーの経済学方法論を、その人格、その時代の精神とのかかわりあいの中でとりあげる、という意味で、社会思想史的接近、より個有には、歴史哲学的

うものである。」(一三一頁)

学ぼうとするものは、先達の切り開いた道を一度は学ぶべきである。（ミネルヴァ書房・一九三九年九月刊・B-6・二六二頁・五二〇円）

内田義彦・宮崎義一  
小林昇・宮崎犀一編

経済学史の基礎

近ごろ多くの講座類が刊行され、学界の問題整理に役立つているようであるが、その傾

し、内田義彦氏の緒論にもあきらかなとお  
り、戦後の経済学史研究が今日一つの転換期・  
反省期にさしかかっていることも確かなこと  
であれば、この講座刊行も意義のあることで  
あろう。